



# HARA MUSEUM ARC

## 日本のまんなかでアートをさげんでみる

原美術館 ARC

2024年3月16日(土) - 9月8日(日)



図1. アンディ・ウォーホル  
「キャンベルズトマト スープ」  
1981 鉄鋼にエナメル絵具  
305 x 198 x 198 cm  
©2023 The Andy Warhol  
Foundation for the Visual Arts,  
Inc. / Licensed by ARS, New  
York & JASPAR, Tokyo G3398  
撮影: 木暮伸也

図1

### 【展覧会の見どころ】

- ① 原美術館とハラ ミュージアム アークをモチーフに制作された佐藤時啓「光ー呼吸」全12作品を展示(全て原美術館最後の展覧会「光ー呼吸 時をすくう5人」展出品作)
- ② 陽光のきらめきや雲の造形、草木の香りや鳥のさえずりなど、豊かな自然とその移ろいとともにある、**時間芸術**のような原美術館 ARC でのアート体験
- ③ **アーティストとの交流と信頼関係を礎に收藏された作品**の数々を展覧

### 【展覧会概要】

原美術館 ARC では、毎年、**ここから発信する意味や意義を考慮したテーマの展覧会**を開催しています。2024年春夏季は、「日本のまんなかでアートをさげんでみる」と題し、主に原美術館コレクションと原六郎コレクションから厳選した作品を展示します。

\*\*\*

**原美術館 ARC は「日本の中心」にあります。**「日本の中心」と言っても、政治・経済の中心として誰もが思い浮かべる東京でも、文化の中心地とされる京都でもありません。ここは群馬県渋川市、「日本のまんなか」と称する街に原美術館 ARC はあります。

**中心とは何なのでしょう？**古くから三国街道の宿場町として栄え、伊香保の名湯を有し、赤城や榛名の山々をのぞむ渋川市は、「日本の主要四島で最北端の北海道宗谷岬と最南端の鹿児島県佐多岬を円で結んだ中心に位置する」ことから

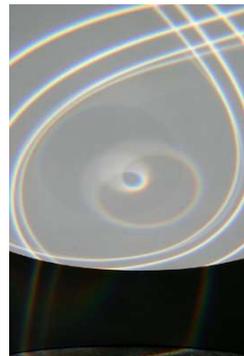
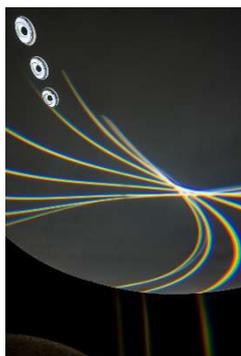


図2、3、4. オラファー エリアソン  
「Sunspace for Shibukawa」  
2009 ステンレス、ガラスプリズム  
©2009 Olafur Eliasson



(左から)図5, 6, 7, 8 佐藤時啓「光—呼吸 Harabi#2」「光—呼吸 Harabi#1」150 x 197 cm  
「光—呼吸 Harabi#6」「光—呼吸 Harabi#7」197 x 150 cm 2020 ピグメンプリント©Tokihiro Sato

「日本のまんなか」とされ、夏にはユニークな「へそ祭り」が開催されるなど独自の文化を育む街です。しかし、「日本の中心」、「真ん中」と称する街は他にもあります。つまり、**物事を捉える角度や尺度を変えれば、中心はその位置を様々に変化させることができるのです。**

原美術館 ARC は、原美術館(東京・品川)と別館ハラ ミュージアム アーク(群馬・渋川)の活動を 2021 年に集約した美術館です。企画展を主軸にしていた原美術館とは異なり、ここでは主に現代美術と東洋古美術の収藏品展を開催しています。これらのことは、一般的には、原美術館が日本の中心都市・東京からその周縁に拠点を移したと捉えられるでしょうし、企画展を中心にすすめる日本では、収藏品展は周縁的展覧会とされる傾向にあるでしょう。

ですが、災禍を経験した私たちには、安心して深呼吸のできる空気や大きな青空の下でのアート体験が視界や思考の中心に入ってきましたし、地球の持続可能性が危ぶまれる現在では、大掛かりな宣伝や演出を抑え、国内外のアーティストひとりひとりとの信頼関係を礎として今ここにある作品群と向き合う**収藏品展の開催こそが、原美術館 ARC の中心的役割のひとつ**なのではないかと考えています。

アートとは、中心(既成概念)をずらす思考のことであり、**中心を変えることは先端に立つこと**でもあります。世の中の関心が新しさに向いていた昭和の日本で廃墟と化した戦前の洋館を「原美術館」として再生し維持し続けたことや、RC 造が公共建築の当たり前だった時代に前身のハラ ミュージアム アークの建築を木造としたことが先駆的であったように、そして何より、まだ価値の定まっていなかった現代美術を両館から国内外に発信したことが先進的であったように、**原美術館 ARC も先端に立ち続けよう**と思います。そして、**周縁とされがちなアートという営みを、出会った誰もが大好きになる中心的な場であり続けよう**と思います。 **ここで、お待ちしております。**



図9. 安藤正子  
「雲間にひそむ鬼のように」2006  
パネル張りカンヴァスに油彩 140 x 220 cm  
©Masako Ando

## 【各展示室テーマおよび出品作品(予定)】

### ■ギャラリーA: 思考のきせき

佐藤時啓、戸谷成雄、名和晃平など

### ■ギャラリーB: あいまいな境

磯崎新、榎倉康二、杉本博司、崔在銀、ヤン フェーブルなど

### ■ギャラリーC: 中心のゆらぎ

安藤正子、アドリアナ ヴァレジョン、草間彌生、バックミンスター フラー、ジョナサン ボロフスキー、森村泰昌など

### ■観海庵: ひろがる

岸駒「寒山拾得」、雪村「列子御風図」、長沢蘆雪「群雀図」、ロバートメイプルソープ、林登科「藻魚図」、「角力図屏風」など

### ■通年展示、屋外作品

草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」、奈良美智「My Drawing Room」、宮島達男「時の連鎖」、束芋「真夜中の海」、鈴木康広「日本列島のベンチ」、アンディ ウォーホル「キャンベルズ トマト スープ」、オラファー エリアソン「Sunspace for Shibukawa」、ジャン=ミシェル オトニエル「Kokoro」など

## 【開催要項】

展覧会名／「日本のまんなかでアートをさげんでみる」

会期／2024年3月16日(土)－9月8日(日)

\* 観海庵は会期中展示替えあり

主催・会場／原美術館 ARC

開館時間／9:30 am－4:30 pm(入館は 4:00 pm まで)

休館日／木曜日(5/2 は開館、8月を除く)

入館料／一般 1,800 円、70 歳以上 1500 円、大高生 1,000 円、小中生 800 円

\* 前売りオンラインチケット(日にち指定) [https://e-tix.jp/haramuseum\\_arc/](https://e-tix.jp/haramuseum_arc/)

\* 原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内小中学生無料

住所／〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 E-mail: [arc@haramuseum.or.jp](mailto:arc@haramuseum.or.jp)

ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

X: @haramuseum\_arc Instagram: haramuseumarc



図 10. 鈴木康広  
「日本列島のベンチ」  
2014/2021 ミクストメディア  
©Yasuhiro Suzuki 撮影: 木暮伸也

## 【その他の広報用図版およびクレジット】



図 11



図 12



図 13



図 14



図 15

【図 11】名和晃平「PixCell [Zebra]」2003 ミクストメディア 104.5 x .91 x 91. cm ©Kohei Nawa

【図 12】アドリアナ ヴアレジョン「スイミングプール」2005 カンヴァスに油彩 110x140 cm ©Adriana Varejão

【図 13】雪村「列子御風図」室町時代 紙本墨画 一幅

【図 14】筆者不詳「角力図屏風」江戸時代 紙本金地著色 六曲一双

【図 15】草間彌生「ミラールーム (かぼちゃ)」1991/1992 ミクストメディア 200 x 200 x 200 cm ©YAYOI KUSAMA

\* アンディ ウォーホル「キャンベルズトマト スープ」(図 1)、草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」(図 15)の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体からの著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。

## 【原美術館 ARC について】

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館(東京・品川、1979-2021)と別館ハラ ミュージアム アーク(群馬・渋川、1988-)の活動を集約し、2021年4月に始動しました。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時より収集した1950年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎(1842-1933)が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新(1931-2022)が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリーAと前庭に向かい両翼を広げるギャラリーB、Cは、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺(園城寺)の旧日光院客殿の書院造に想を得た特別展示室「観海庵(かんかいあん)」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間です。

広々とした庭ではアンディ・ウォーホルやオラファー エリアソンなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、毎月1回の庫内ガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーなどをご用意。展示作品をイメージしてスタッフが考案した「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、当店オリジナル商品をはじめ、展覧会カタログや関連書籍、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介するなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりです。

原美術館 ARC では、メンバーシッププログラムを設けています。会員証のご提示で無料入館やカフェ、ミュージアムショップでの割引が適用される他、開架式収蔵庫ツアーなどのメンバー限定イベントへのご招待も。当館の活動をサポートしながら、様々な角度からアートを体験するプログラムにぜひご参加ください。

<https://www.haramuseum.or.jp/jp/membership/>

写真上から、ジャン＝ミシェル オトニエル「Kokoro」2009、原美術館 ARC 外観、観海庵、開架式収蔵庫



## 【交通案内】

・電車の場合：JR「高崎駅」西口より原美術館 ARC 行きシャトルバスにて約 1 時間(4～10 月の毎週日曜日運行予定)。または上越／吾妻線「渋川駅」より、関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き(3 番のりば)にて約 15 分、「グリーン牧場前」下車、徒歩 7 分。または「渋川駅」よりタクシーで約 10 分。

・お車の場合：関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より 8 km、約 15 分。(無料駐車場 46 台、大型バス駐車場 2 台)

■JR 乗換案内例 \* 2023 年 12 月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線(平日・土休日)

〈はくたか 553 号〉

東京駅 7:52 発→高崎駅 8:42 着／8:53 発[吾妻線 大前行]→渋川駅 9:19 着／9:25 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]→グリーン牧場前 9:40 着

〈とき 317 号〉

東京駅 10:40 発→高崎駅 11:31 着／11:44 発[吾妻線 長野原草津口行]→渋川駅 12:08 着／12:14 発 関越交通バス[伊香保温泉行]→グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津・四万」

〈草津・四万 31 号〉 \* 土休日のみ運行

上野駅 9:00 発→渋川駅 10:38 着／10:55 発 関越交通バス[伊香保温泉行]グリーン牧場前 11:10 着

〈草津・四万 1 号〉

上野駅 10:00 発→渋川駅 11:36 着／11:42 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 11:53 着

〈草津・四万 3 号〉

上野駅 12:10 発→渋川駅 13:50 着／13:55 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 14:06 着

■高速バス

JR バス上州ゆめぐり号 \* 詳細は JR バス関東のサイトでご確認ください。

新宿駅⇄渋川駅・伊香保・草津温泉 <http://time.jrbuskanto.co.jp/bk03010.html>

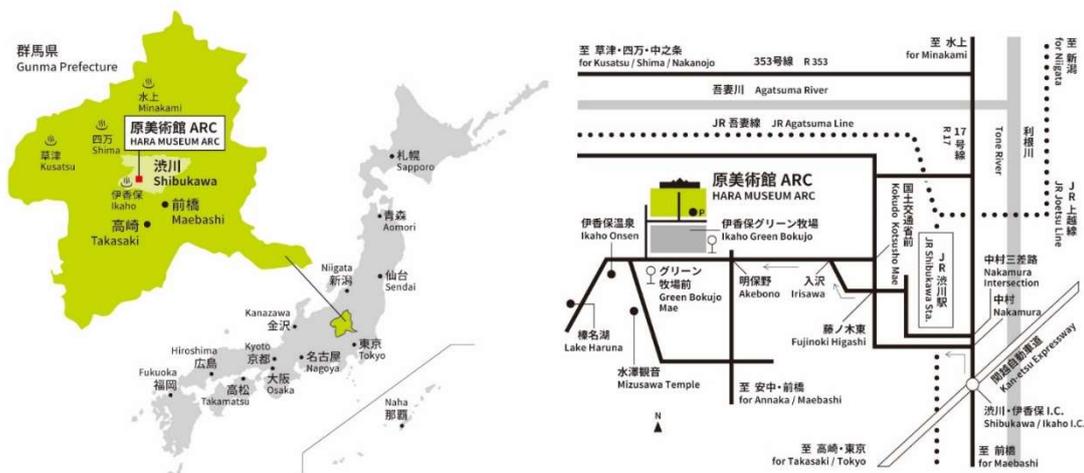
関越交通バス \* 詳細は 関越交通バスのサイトでご確認ください。 <https://kan-etsu.net>

伊香保四万温泉号 羽田線(東京駅経由) \* 伊香保グリーン牧場下車

高崎・伊香保・四万温泉号 八王子線 \* 渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

■ヘリコプター

東京ヘリポート→伊香保温泉長峰ヘリポート 約 35 分、伊香保温泉長峰ヘリポートから当館までタクシーで片道約 10 分 \* 詳細は各ヘリコプターチャーター会社へお問い合わせください。



展覧会「日本のまんなかでアートをさげんでみる」 担当学芸員：坪内  
取材・図版提供など広報に関するお問い合わせ：原美術館 ARC 広報 山川、野田  
E-mail: [press@haramuseum.or.jp](mailto:press@haramuseum.or.jp) Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449